



今年の社員旅行は上海へ行った。現地での通訳員ももちろん阿拉藤高枝さん

「ほとんどの留学生は、日本語学校を卒業しているの、ある程度は日本語を話すことができます。しかし、微妙なニュアンスはなかなか伝わらない。同郷である三人が中国語で説明したほうがきちんと伝わると、信頼も得やすい」といふ方やコミの出し方など業主からの苦情が絶

えなかった。日本と中国では習慣の違いがあるため、避けられない問題だった。が、それも日々に減っていったという。しかし、同社にとって外国人社員として受け入れるの、初の試み。その点で不安はなかったかと聞く。「な」といって黙った。その理由を聞いて、作業の活字でも業務時間にすぐぐに帰る支度があると。大丈夫だろうという思いもありました。だがそんな不安は案外に終わった。留学生は、何年か日本で暮らして戻ると、大学時代にアルバイトもしている。だから日本の企業

ですが、各大学には出身国別に留学生会があります。しかも、会長同士の会があるなどそれぞれがネットワーク化されている。新に入社した人にももともと留学生で来たから、そんな事情は詳しく、人脈もある。それでそうした組織も働きかけ、当分の存在を広くアピールしてくれたい。われわれ日本だけではとても成えなかつたことです」

国民性の違いによる不安は 記憶に残った

「中国で働いている知人に聞いたら、日本人と国民性が違うので苦労が多いと漏らしていました。例えば、公私の割り切りが時間について、作業の活字でも業務時間にすぐぐに帰る支度があると。大丈夫だろうという思いもありました。だがそんな不安は案外に終わった。留学生は、何年か日本で暮らして戻ると、大学時代にアルバイトもしている。だから日本の企業

外国人社員の「飾らないホンネ」

わからないことは正直に「わからない」と言うように、と教えられ、最初は戸惑いました(インド)

代表取締役社長 吉田光一氏



なるよりも非常に高いです。自国に戻り、可能性は業務にできる貢献が非常に高いです。

フラットエージェンシー
所在地：京都府京都市北区
紫野高瀬町田町9-1
業容：不動産賃貸仲介、管理など
創業：1974年
従業員数：66人（うち外国人社員2人）
URL：http://www.flat-a.co.jp/

ではどのくらい働き方を求められるかなとある程度は理解はしていた。少ななくとも帰国は二ヶ月、一ヶ月は帰つてしまふようなことはない。職場でもよく受け込んでくれる。定感心するくらいです。昨年四月に新卒入社した一人、阿拉藤高枝さん。大卒時代は飲食店やホテルでアルバイトしていた。その経歴もあり、入社後、戸惑いことはなかったと振り返る。その理由を聞いて、作業の活字でも業務時間にすぐぐに帰る支度があると。大丈夫だろうという思いもありました。だがそんな不安は案外に終わった。留学生は、何年か日本で暮らして戻ると、大学時代にアルバイトもしている。だから日本の企業

「私は〇〇歳で来日したので、それもその中国の会社のことを知りませぬ。そのせい日本の働きがおかしなものと思わなかった。入社時のマナー研修なども、ごく簡単に受けられることができました。阿拉藤高枝さんは、大学入時に



阿拉藤高枝さん 入社2年目

増加が見込まれていた。即ち「留学生生三〇万人理想」を受け、京都市が留学生を五〇〇〇人から一万人に倍増させると発表したので。一留学生の国籍を見ると、中国人が圧倒的に多い。そこで中国人社員を迎え入れることにしました。その成果はすぐ目に見えなかった。私自身、まったく知らなかったの

6年前に留学のため来日した際、業主の理解が得られず居住先を探すのに苦労したという阿拉藤高枝さん。その経験や、「日本で暮らすのが好き」という理由から帰国への入社を希望したという

「人脈とやる気」のある中国人社員が 留学生向け賃貸事業を成長させた

「彼らが入社して留学生への賃貸住宅の紹介が飛躍的に伸びたんですよ。予想をはるかに超える報をもたらしてくれました」京都市内で幅広く不動産ビジネスを手掛けるフラットエージェンシー。代表取締役の吉田光一氏は、こういって満面の笑みを浮かべる。「彼」は、一昨年から昨年にかけて新規採用した三人の中国人スタッフ。一昨年一月、留学生として来日し、すでに大学を卒業していた男性を中途採用。さらに半年後、やはり京都市の大学に留学し、日本で就職を希望していた人の女性を新卒採用。結果、留学生に対する賃貸住宅の紹介件数は、二十数件、一昨年度から二四〇件、昨年度とおよそ一〇倍に増えた。吉田氏が中国人社員の採用を考えたのは、福岡市の同業者から成功事例を聞かされたのがきっかけだった。その業者が外国人スタッフを採用したところ、外国人の働きが増え、入居にまつわるトラブルも激減したという。折しも京都では、留学生の